

福島工業株式会社

証券コード:6420

株主・投資家の皆さまへ

第60期

平成22年4月1日～平成23年3月31日

期末報告書

Fukushima 

フレッシュ・バリューをあなたとともに



創立60周年を迎え、三方善しの企業理念実現に邁進

リーマンショックを乗り越え業績アップ

まずは、このたびの東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。被災地の皆様方の一日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。

当期の当社グループを取り巻く環境は、流通産業では、個人消費は引き続き低調であったものの、地域の食を支える食品スーパーの売上は堅調に推移いたしました。また、外食産業では、消費者の生活防衛意識による低価格志向が定着しつつあり、客単価は前年を下回ったものの、夏季以降の売上が好調に推移し、2年ぶりに外食産業全体の売上が前年を上回るなど消費に回復の兆しが見られました。

これにより、冷凍冷蔵ショーケース、冷凍冷蔵庫の販売が好調に推移し、売上高、利益とも前年を上回る結果となりました。

今後の見通しといたしましては、平成23年3月11日の東日本大震災の発生により、一時的な経済の停滞が予想され、今後の景気に与える影響は不透明な状況です。当社グループは、震災発生直後より地域の生活を支えるスーパーマーケットなどの早期復興に向けた支援をグループ一丸となって行っており、避難所への当社冷蔵庫の寄贈や義援金協力など一日も早い復興に向けて支援を続けてまいります。そのような中、東北・関東圏で実施される電力の使用制限や全国での自粛ムードによる経済の停滞は、流通産業、外食産業ともに消費マインドの低下や営業時間の短縮など少なからず影響がでるものと思われ、予断を許さない状況が続くと予想されます。

60周年を迎え、新たなステップへ

無から出発した創業当時より、当社には、自分達で考え、開発・生産し、自分達の力で切り拓くという「独立自尊」の精神が流れています。そして会社の原点である「モノ作り」の精神は今も受け継

がれています。

私が社長に就任してから、今年で20年目を迎えます。この20年の間にも大きな変遷がありました。企業理念もその一つです。当初は、社員と一緒にしてお客様を幸せにすれば、給料も払えて従業員の幸せを実現できる。そう考えて「お客様の幸せ」「社員の幸せ」の2つの企業理念を掲げていました。

一つ目の転機は、当社が平成6年にジャスダック市場へ店頭登録を目指していたときに訪れました。当時、上場審査が大変厳しく3年かけてようやく上場を果たしましたが、その間の増収・増益を支えてくださったのはお取引先のおかげであり、上場後は株主様の期待に応えなければと、3つ目の「株主・お取引先の幸せ」を掲げるようになりました。

次の転機は、スーパーでRO水自動販売機の前で行列する買い物客の人たちを見たときに気づきました。「自分たちは業務用機器のメーカーで、縁の下の力持ちだと思っていたが、実はその先のお客様である生活者の安全・安心の暮らしに直接貢献していたのだ。生活者の幸せ実現がスーパーなどのお客様の利益にもつながっている」と。改めて自社製品を見直してみると“温度コントロール技術”という当社のコアが拡がり、“食品安心技術”に再定義できることに気づいたのです。そこで、4つ目の企業理念「生活者の幸せ」が誕生し、現在も当社が目指す究極の目的として掲げています。この4つをつなぐコンセプトが「幸せ創造企業」であります。当社の企業理念は60年という歴史の中で、さまざまな変化を遂げましたが、この4つが揃ったことで目指すものが名実ともに明らかになりました。

当社は、本年12月で創立60周年を迎えます。これもひとえにお客様をはじめ、株主様や関係各位の皆様のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。60周年を新しいフクシマグループの飛躍の年と位置づけ、「モノ作り」という創業の精神を受け継ぎながら、新たな「人間性を良くするNo.1技術力」を次期中期 Vision とし、“社員の人間性”と“お客様の人間性”と“生活者の人間性”を

No.1技術力でつなぎ、企業理念でもある当社、お客様、そして社会（生活者）が善くなる“三方善し”を実現すべく邁進してまいります。

お客様と共に国難を切り抜ける

当社が60周年を迎える年に、東日本大震災という未曾有の災害が発生いたしました。災害を目の当たりにし、スーパーマーケットや外食産業など生活者の食に携わっておられる当社のお客様の役目がいかに大事であるかを再認識すると共に、当社の使命についてもあらためて重く受け止める機会となりました。この国難ともいえる状況に微力ではありますが、福島工業は立ち向かっていき、そして我々だけでなく当社のお客様やお世話になっている方々と共に一緒になって困難を切り開いていきたいと思います。

当社が取り組んでいる安全・安心な食生活を支えるという事業は、これからも創業時の「モノ作り」の精神を忘れず、技術力・人間力を高め成長することで、社会の中で必要とされる存在を目指して、日々取り組んでまいります。今後も尚一層のご支援を宜しく願い申し上げます。

代表取締役社長

福島 裕



企業理念

Corporate philosophy

「環境・安全・安心をテーマに
「幸せ創造企業」を目指します。」

第1項

生活者の幸せ

わたしたちは、環境・安全・安心をテーマに、お客様と協働し、生活者の「幸せ」に寄与することを基本使命とします。

第2項

お客様の幸せ

わたしたちは、独自の技術とシステムにより、フードビジネスに新しい価値を創造し、お客様の「幸せ」に貢献することを基本使命とします。

第3項

社員の幸せ

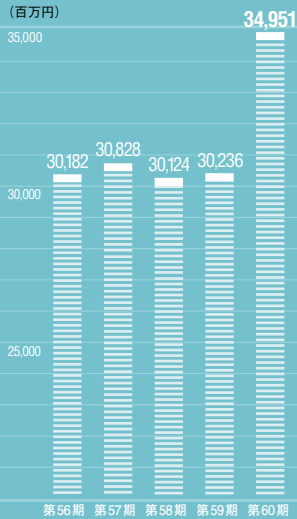
わたしたちは、自己責任能力を高め、自身と社業の成長を通じて、物心両面の「幸せ」を追求することを基本使命とします。

第4項

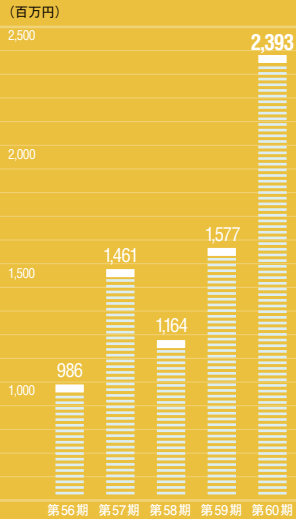
株主・お取引先の幸せ

わたしたちは、将来への目標を共有し、常に業績向上に努め株主やお取引先に「幸せ」を提供することを基本使命とします。

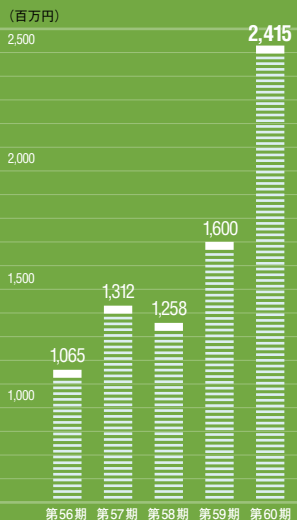
売上高



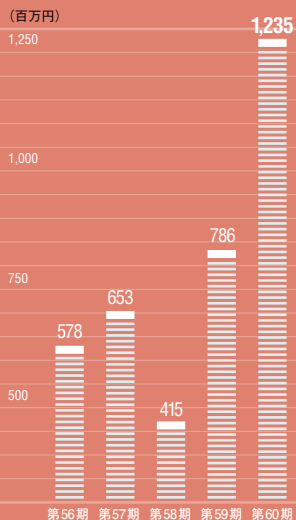
営業利益



経常利益



当期純利益



トータルソリューション力による
提案ですべて前年比増に

冷凍冷蔵庫販売では、控えられていた設備投資も徐々に回復の兆しが見られ、低価格の居酒屋チェーンなど出店意欲旺盛な外食顧客を中心に、汎用業務用冷蔵庫や製氷機の売上が伸びました。また、病院や研究施設などの理化学業界向けのメディカル機器の売上が堅調に推移しました。さらに、食品メーカーなどの食品工場で大量に食品を冷却・凍結させるトンネルフリーザーの売上が伸び、昨年度は半期分のみ含んでいたその売上が当年度はその通年実績が含まれるため、売上高は前年同期比24.5%増となりました。

冷凍冷蔵ショーケース販売では、市場全体の需要は前年並みと引き続き低調でしたが、地域の食品スーパーへ業界No.1の省エネケースと独自の省エネ制御システムを積極的に提案し、オープンショーケースの売上が伸びました。また、“消費電力を50%削減”（当社従来製品比）という業界初のインバーター冷凍機搭載製品が評価され、スーパーやドラッグストア、道の駅などへの販路が拡大し、売上高は前年同期比6.1%増となりました。

設備工事では、食品工場や食品流通の大型設備を手がけるエンジニアリング事業の強化により大型冷蔵倉庫の売上が伸び、ショーケース・厨房・ペーカリー関連の設備工事が増加し、設備工事の売上高は前年同期比12.0%増となりました。

サービス販売では、猛暑によるメンテナンス需要の増加や、保守契約・RO水生成装置の水質保証契約の増加、定期メンテナンスと効率的な運転でランニングコストを低減する新しいサービスメニュー提案により、サービス販売の売上高は前年同期比17.7%増となりました。

また、製造ラインの見直しによる生産性向上、部品の共通化や原材料の見直しによるコスト低減、設備工事での原価低減活動、経費削減に取り組み、当連結会計年度の売上高は349億5千1百万円（前年同期比15.6%増）、営業利益は23億9千3百万円（前年同期比51.8%増）、経常利益は24億1千5百万円（前年同期比50.9%増）、当期純利益は12億3千5百万円（前年同期比57.0%増）となりました。

2010年の出来事をご紹介します
2010/4～2011/3

TOPICS
1

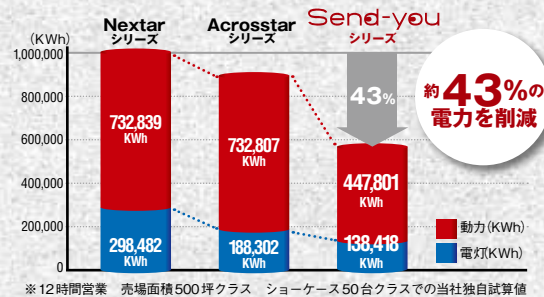
“Send-you”シリーズが圧倒的な省エネを実現

店舗で使用する電力の約60%を占める冷凍冷蔵ショーケースなどの冷凍設備機器。店舗全体の消費電力量の削減を求めるお客様にとって、“Send-you”の省エネ化が消費電力量削減に効果的です。

2010年に従来のショーケース“アクロスター”をフルモデルチェンジし、新型ショーケース“Send-you”シリーズを発売。それ以来、多段、セミ多段、アイランド、平型すべてのタイプにおいてラインナップを充実させてきました。エアカーテンの吹出し



モデル店舗での消費電力比較



Send-you

Send-youを導入することで10年前に比べて冷凍冷蔵設備の消費電力量を約43%削減することができます。

位置の見直し、ハニカム構造の大型化などの新設計により、省エネ店舗提案を実現する“Send-you”シリーズ。

フクシマは、食が持つ鮮と美を守りながらかつてない省エネ効果を生み出しました。

TOPICS
2

展示会に出展、新製品をPR

今期も当社は、スーパーマーケットトレードショーおよび厨房設備機器展に出展しました。スーパーマーケットトレードショーでは、フルラインナップとなった新型ショーケース“Send-you”シリーズや「空調最適制御」を組み合わせた店舗まるごとの省エネ提案、インスタア革命提案として、誰でも簡単に本格的調理ができるeクッキングシステムの提案を行いました。

厨房設備機器展では、この5月にフルモデルチェンジしたヨコ型冷蔵庫、同じくモデルチェンジしたブラストチラーやドウコンディショナーをはじめとした新型製品の提案、冷却調理実演・低温スチーム調理実演を行いました。

いずれの展示会でも、大勢のお客様にご来場いただき、省エネで付加価値の高い当社の製品をPRする機会となり、大盛況となりました。

「創業の精神」から見る 福島工業の60年



福島工業の“やればできる”精神。数々のオリジナル製品を生み出してきた歴史には、この創業の精神が息づいています。創業からの60年で誕生した製品を振り返ると同時に、滋賀工場の大谷淳一工場長に、福島工業のものづくりについて語っていただきました。

役員インタビュー

お客様と地球環境に応える製品をつくり続けよう

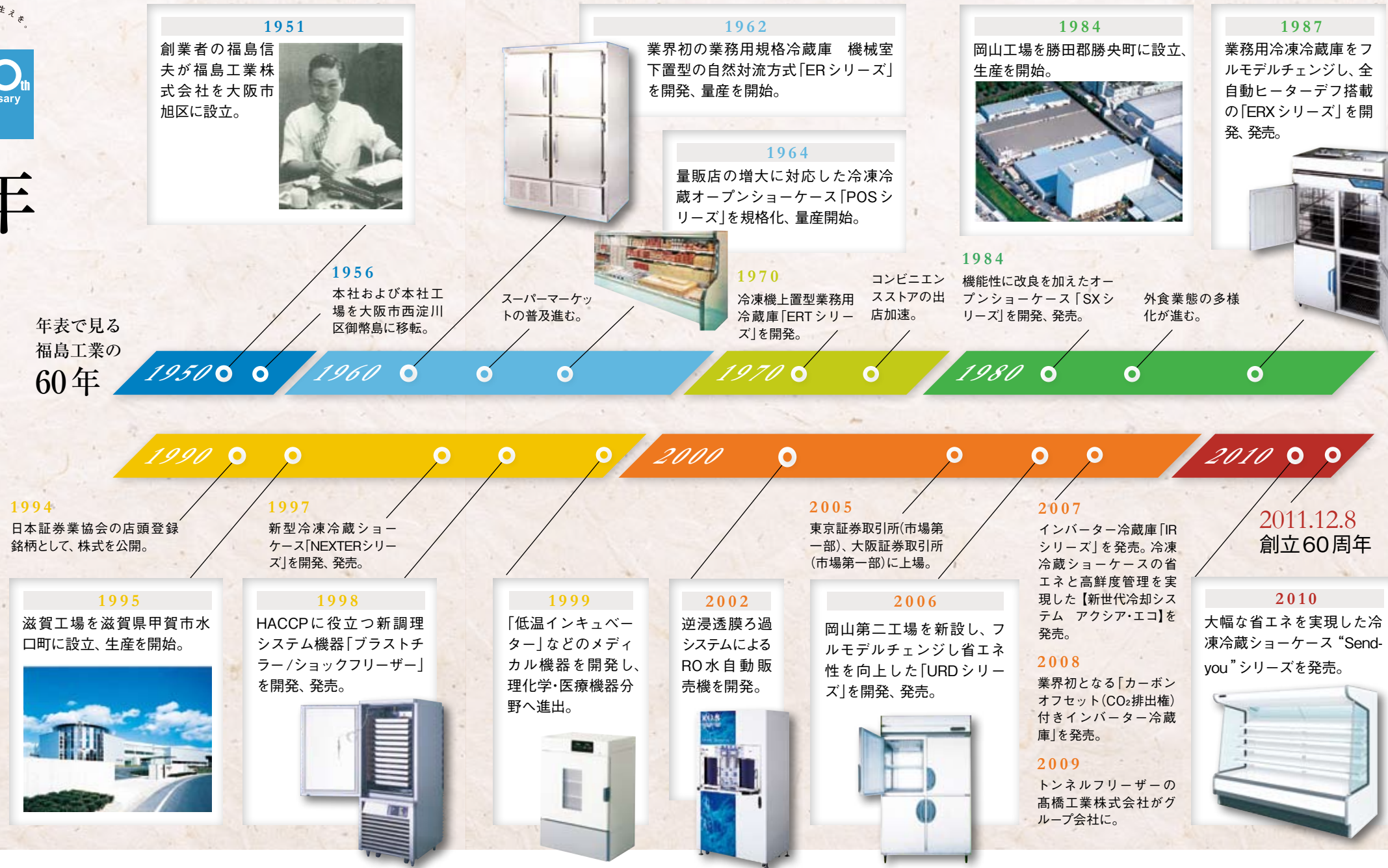
入社以来32年間、製造現場でものづくりにも励んできました。入社当初、オイルショックによるエネルギー不足で“省エネ”が求められていました。ショーケースを構造から見直し、さまざまな部品を何度も試したり形状を微調整したりと試行錯誤のうえ、2重エアカーテン構造を開発。SEシリーズの誕生でした。これが現在の省エネタイプのショーケースの原型になったと言えます。



執行役員 滋賀工場長
大谷 淳一

テーマに対し、自分たちで解決策を見つけ実行していくのが私たちのものづくり精神です。まずはお客様の安全・安心が第一。そして地球環境のことを考えていかなければならない。今の福島工業にも息づいている“やればできる”精神で、お客様に満足していただける製品をつくり続けていくことが私たちの使命だと強く感じています。

年表で見る 福島工業の 60年



福島工業は、生活を支える食品スーパーの「高鮮度」と「省エネ」を両立する店づくりから、専門店の料理人のこだわりを実現する厨房づくりまで、食生活を豊かにするお手伝いをしています。

株式会社ベisia

ベisiaスーパーセンター古河総和店様

関東を中心として、北は福島県から西は滋賀県まで積極的に展開されている株式会社ベisia様の「ベisia」としての100店舗目となる記念店舗としてオープンされました。

同店では、環境にやさしい店舗作りとしてそのまま持ち帰ることができる専用カゴ「エコショッピング」の導入、店頭での資源回収や店舗より排出される廃棄物のリサイクルにも取り組まれており、設備面ではフクシマ独自の「アクシア・エコ」システムを全面的に採用いただき、生鮮食品の保管に求められる「高鮮度」と冷却システムトータルでの消費電力低減を実現する「省エネ」を両立されています。



◀高鮮度と省エネを両立する「アクシア・エコシステム」を導入

株式会社フードコープ

コッポリ様

京都生協様が培ってきた安全・安心の食材に、シェフのひと手間を加えた料理を提供するという、京都生協としての新しい表現の場として出店されたのが、グリルアンドベーカリー「CO・PO・RI(コッポリ)」です。

そこで福島工業は、厨房のプロとして限られたスペースの中でシェフの要望にこたえる厨房を作ることに加え、業務用冷凍冷蔵庫だけでなくRO水生成装置やFEクリーン水を導入いただくことで「CO・PO・RI(コッポリ)」が目指す安全・安心そして思いやりのこもったこだわりのお店作りの実現のお手伝いをさせていただきました。



◀環境にやさしい省エネ厨房を設計

OSAKA STATION CITY

平成23年5月、JR大阪駅がLUCUA(ルクア)・JR大阪三越伊勢丹などを中心にOSAKA STATION CITYとして生まれ変わりました。福島工業の製品

もたくさん納入いただいているこの新しい大阪の玄関口から、日本中に元気を発信していきたいと思えます。



生活者の「幸せ」を取り戻すために復興支援を実施

このたびの東日本大震災に伴い、各処でさまざまな復興支援活動を行っています。その活動内容についてご報告いたします。

1 業務用冷凍冷蔵庫を寄贈

当社といたしましては、被災地で避難生活をされている一人でも多くの方の食生活に、少しでもお役立ちできるよう、被災地に届けられた大切な食料を保存していただくための当社製品を被災地へ寄贈いたしました。

このたび、岩手県庁、宮城県庁、福島県庁を通じて、

- 岩手県…山田町、野田村、大船渡市、陸前高田市、岩泉町、大槌町など
- 宮城県…山元町、七ヶ浜町、美里町、仙台市、塩釜市、登米市、栗原市、石巻市など

○福島県…富岡町、田村市

などの各市町村に対して計60台の業務用冷凍冷蔵庫を寄贈の上、避難所に設置させていただいております。



2 地域のスーパーの復興支援

今回の震災で各地域の食品スーパーのお客様についても、多くの被害を受けています。中には地域のみなさんの生活を支えるインフラとしての使命感のもと、いち早く営業を開始されたお店もございます。また被害の大きかった地域のお客様も一日でも早い復興を目指して頑張っております。

当社でも、地域の皆様の生活を支えるスーパー様の日でも早い復興に向けて、東北支店を中心に全力で支援を行っております。



3 復興支援キャンペーン

当社は安全・安心な水を提供できるRO水自動販売機を貸し出し、店舗様には設置場所と水を提供していただき、買い物にいられたお客様には義援金としてRO水をご購入いただくという被災地の復興支援キャンペーンを行っています。



東北支店長インタビュー

被災地の皆様とともに一日も早い復興を

東北支店 支店長
桂 元彦



東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。未曾有の大災害は、復興まで長い時間を要すると思われます。

スーパーマーケットをはじめとした流通業や、飲食店などの外食産業のお客様は、生活者の皆様の食生活に大きく関わっていらっしゃいます。生活者の皆様の食生活のために一日も早く営業再開させたいというお客様の思いに伝えるため、福島工業は、震災発生直後より全国各地より物資やサービスマンを集結させて支援してまいりました。

復興までまだ時間を要するお客様も多くいらっしゃいますが、福島工業は、これからも生活者に「おいしさと安心」「食と健康の喜び」を提供するため、被災に遭われた皆様が元気な笑顔を取り戻せるよう一日も早い復旧復興を支援してまいります。

連結貸借対照表
(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	20,352,774	23,187,683
固定資産	10,823,263	10,560,654
有形固定資産	7,370,032	7,353,893
無形固定資産	110,468	92,347
投資その他の資産	3,342,762	3,114,413
資産合計	31,176,038	33,748,337

負債の部		
流動負債	10,252,857	12,378,546
固定負債	1,947,275	1,809,850
負債合計	12,200,133	14,188,397

純資産の部		
株主資本	18,871,988	19,536,989
資本金	2,760,192	2,760,192
資本剰余金	2,886,073	2,886,073
利益剰余金	13,248,146	14,241,371
自己株式	△22,424	△350,646
その他の包括利益累計額	7,078	△79,710
その他有価証券 評価差額金	174,324	145,384
為替換算 調整勘定	△167,245	△225,094
少数株主持分	96,838	102,660
純資産合計	18,975,905	19,559,940
負債及び純資産 合計	31,176,038	33,748,337

連結損益計算書
(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	30,236,096	34,951,574
売上原価	22,692,736	26,391,263
売上総利益	7,543,359	8,560,310
販売費及び 一般管理費	5,966,183	6,166,871
営業利益	1,577,176	2,393,439
営業外収益	180,200	203,307
営業外費用	157,027	181,243
経常利益	1,600,348	2,415,504
特別利益	32,188	—
特別損失	135,201	89,566
税金等調整前 当期純利益	1,497,335	2,325,937
法人税、住民税 及び事業税	797,808	1,185,643
法人税等調整額	△79,519	△64,192
少数株主損失	△7,677	△30,686
当期純利益	786,724	1,235,171

連結キャッシュ・フロー計算書
(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	2,427,341	3,193,800
投資活動による キャッシュ・フロー	△585,837	△11,711
財務活動による キャッシュ・フロー	191,267	△1,001,642
現金及び 現金同等物に係る換算差額	△22,691	△109,100
現金及び 現金同等物の増減額	2,010,080	2,071,346
現金及び 現金同等物の期首残高	7,335,055	9,345,135
現金及び 現金同等物の期末残高	9,345,135	11,416,482

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

売上高

インバーター冷凍機内蔵型ショーケースや、汎用業務用冷蔵庫や製氷機、トンネルフリーザーの売上が伸びたことなどから、売上高は349億5千1百万円(前年同期比15.6%増)となりました。

経常利益

製造・工事部門での原価低減活動や全社での経費削減活動、さらに高橋工業株式会社を加えた連結子会社の利益の増加により、経常利益は24億1千5百万円(前年同期比50.9%増)となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における資金は、税金等調整前当期純利益23億2千5百万円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べ20億7千1百万円増加し、114億1千6百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、31億9千3百万円(前年同期比7億6千6百万円増)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の計上によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は1千1百万円(前年同期比5億7千4百万円減)となりました。これは主に投資有価証券の売却収入があったものの、設備等として各工場の生産設備等有形固定資産の取得をおこなったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

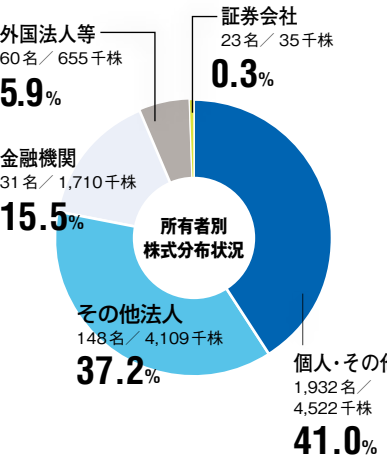
財務活動の結果使用した資金は、10億1百万円(前連結会計年度は1億9千1百万円の収入)となりました。これは主に借入金の返済及び自己株式の取得によるものです。

株式数及び株主数

発行可能株式の総数……………31,842,500株

発行済株式の総数……………11,033,080株
(自己株式439,347株を含む)

株主数……………2,194名

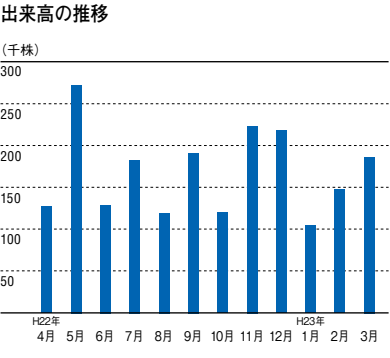
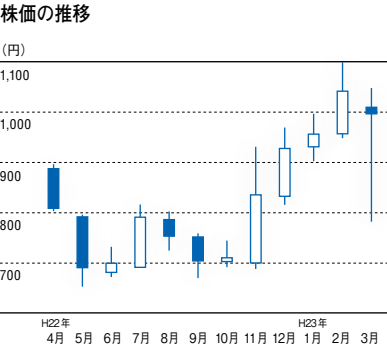


大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
福島機器販売株式会社	2,761	25.0
福島工業社員持株会	940	8.5
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	913	8.3
福島 裕	549	5.0
福島 亮	341	3.1
有限会社 ティー・シー・エス・ビー	275	2.5
ザバンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジャスデック アカウント	195	1.8
日本生命保険相互会社	186	1.7
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	142	1.3
シージーエムエル アイビービー カスタマー コラテラルアカウント	136	1.2

(注)千株以下は切り捨てて表示。また、上記のほか当社所有の自己株式439千株があります。

株価チャート





<http://www.fukusima.co.jp>



この期末報告書は、環境に配慮し、再生紙と大豆インキを使用しています。

会社の概要

商号	福島工業株式会社
本社設立	〒555-0012 大阪府大阪市西淀川区御幣島3-16-11 昭和26年12月8日
資本金	27億6千万円
従業員数	連結:1,072名 単体:870名（準社員除く）
ネットワーク	支社 東日本(東京)、中部(名古屋)、関西(大阪)、西日本(福岡) (平成23年6月29日現在) 支店 札幌、東北(仙台)、信越(新潟)、関東(さいたま)、横浜、 西関東(立川)、北陸(富山)、京都、神戸、岡山、広島、 四国(高松)、西九州(長崎)、南九州(熊本)、沖縄 営業所 旭川、青森、盛岡、秋田、郡山、山形、長野、松本、宇都宮、 高崎、水戸、千葉、小田原、相模原、甲府、静岡、沼津、浜松、豊橋、 三重、岐阜、高山、金沢、福井、滋賀、北近畿、奈良、和歌山、北大阪、 難波、南大阪、姫路、鳥取、松江、福山、山口、徳島、松山、高知、 北九州、大分、佐賀、佐世保、宮崎、鹿児島、石垣 工場 滋賀、岡山 グループ会社 国内 高橋工業株式会社、フクシマトレーディング 海外 香港、台湾、シンガポール、韓国、上海、北京合弁工場
役員	代表取締役社長 福島 裕 (平成23年6月29日現在) 専務取締役 福島 亮 常務取締役 片山 充 取締役 長尾健二 取締役 水谷浩三 監査役 竹内博史 監査役 田中芳樹 監査役 中井 斎

株式のご案内

決算日	3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬に開催
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の確定日は9月30日
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部
公告掲載方法	当社の公告はホームページ http://www.fukusima.co.jp/ir/advertise.html に掲載いたします。

株主事務取扱所

●株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

●株主名簿管理人事務取扱場所

大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

【郵便物送付先】 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

【電話照会先】 0120-176-417

【インターネットホームページURL】 <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>